第 26 回「会員便り」

～　終生現役を目指して　～

石原紀子

“ 時として、生きる目標を消え失せてただ息をする。 そんな時もある。
いつなのか、次の元気に会えるのは。 ”

私も含めて、年をとると、こんな気持になる人も多いのでは？！　でも、いつも私に元気をくれるのは友人、家族そして趣味。 友人、家族は私にとって、昔なつかしいカード遊びの“七ならべ”の 6 と 8 の存在である。大きな効力を持っている。でも何回も使えない。だから、これを私の懐刀のように、私はその時々の最後の“とりで”としている。

主人を送ってから、誰かの為ではない、自分の生きる方途として趣味がある。退職をした時、さぞかし有り余る時間があるだろうと、これからの人生に向けて、“やりたいこと”を書き上げてみた。どれもこれも中途半端に終わっている。理由は時間がないからと言い訳をして。そして、新しくその中の一つ、脳トレを兼ねて、一度も使ったことのない教員免許のある英語をやってみることにした。目標は原書を読むこと。海外旅行に行く以外、何年も使ったことのない英語。手はじめに英検三級、準二級にいどみ、二級で足踏みをしている。私の単語力の欠とリスニング力。 そんなに甘くはないようだ。 今も、脳トレと称してネイティブの先生に月何回かお願いして、進まぬ努力をしている。

そんな時出会ったのが、同じ言葉を媒体とするこの“外国人に日本語を教えるボランティアの会”でした。 会員の先輩方は皆自然体ながら輝いておられた。グループ嫌いの私が末席ながら役員をするまでにのめり込んだ。 何が私を引きつけたのか。その後、しばらく、家庭の事情でこの活動から離れていたのだが。

その間、喜寿を迎え、加齢による意欲の減退とまわりのやさしさにトップリ浸かった怠けぐせ、そして時として私を襲う冒頭のソリタリー感。そんな私をムチ打ってくれたのも、このボランティアでした。 最近、望まれるままにお受けして、再開したこの活動。

今は資料作りに、そして教え下手な私はシミュレーションまでする。一週間が忙しく、実は気まま感を知ってしまった私には少々、負担でもある。　二人の幼い子供と、最近会社の社長になったという多忙なご主人を持つインド人である私の生徒さんは忙しい。勉強も一進一退である。私は彼女に、“いつでも休んで(辞めて)いいのよ”とそそのかす。　その都度、“大丈夫です”と答えて、週 2 回にまでなってしまった。 そんな私を見て、娘いわく“ママ、まだまだいけるネ” 冗談じゃない、と思いながら、わずかに出て来たこの充実感。

「人」とは良く言ったものである。お互いどこかで支え合っているんだなア～と。まず、“ゴーッ、ワンステップ！　かな？！　“ 終生現役 ” 元気の出る良い言葉だ。

ところで、先日、もうすっかり雪の消えた御坂の峠を愛車を駆使して、カムイスキー場へ行って来ました。ここしばらく忘れていた私の趣味の一つである念願の気ままな「一人スキー」をエンジョイ。 自然は雄大で、優しく私を迎え入れてくれました。 “アーッ、気持ちいい～」

皆さん、これからもよろしくお願いします。